

広報サポーター
カメラリポート

秋の夜空を彩る

田原祭りの花火

皆さんこんにちは。広報サポーターの河合です。9月17日(土)・18日(日)に開催された伝統の田原祭り。今回は、18日(日)の「花火大会」にスポットを当て、その一部をご紹介します。

田原祭りは、歴史を重ね今に受け継がれる伝統文化として地域に愛されています。市の有形民俗文化財に指定され、町内を練り歩く絢爛豪華な三町(萱町・本町・新町)の山車とともに、見所の一つとして知られる花火大会。市内だけでなく県外からの観光客も見られ、多くの方に親しまれています。今年は弱い風が吹く中、手筒花火や夜空を彩る五町競演の花火大会が行われました。

五町とは、萱町・本町・新町・巴江・衣笠のことです。打上花火は、全国的に見ても遠隔操作による電気点火に移りつつあります。最近では、打上専用のコンピュータ点火器を導入している煙火業者も増えてきました。しかし、田原祭りでは、五町の住民



▲日本の基本的な花火の菊先



▲エメラルド色のしなやかな菊花火



▲日本の花火の最高傑作といわれる三重芯変化菊



河合

による各煙火会が、自らの手で打上花火から仕掛け花火まで打ち上げているそうです。五町同時の早打ちや、特大の奉納スターマインは見事でした。

近年増えてきた、パステルカラーなどの新しい色合いの花火。薄紅、桜色などの日本の伝統的な色彩に挑戦する花火作家も現れています。明るい紅や、薄いピンク色とは呼ばず、あくまで「薄紅」「桜色」の呼び名にこだわりが感じられます。私は色の呼び方などを知って、日本人として何とも粹々だと思いました。

これらの色彩豊かな田原祭りの花火は、まさに五町の方々の「粋」な心意気によって受け継がれていると感じました。

投稿 田原福祉専門学校

「オープンカレッジ」

田原福祉専門学校では、8月1日(月)～31日(水)にオープンカレッジを開催し、16名の参加がありました。今回は、楽しく学べる介護福祉の入門コースということで、いろいろな角度からの講義や演習などを行いました。ここで、受講生の林美美子さんの感想をご紹介します。

「私は高齢者に接する機会が多く、介護の重要性を感じたことから、オープンカレッジに参加しました。各専門分野の先生のお話に吸い込まれ、感動を覚えるくらい楽しかったです」

これからも、さまざまな講座などを開催していきますので、ぜひ皆さんもご参加ください。



▲鈴木校長の講義を受ける参加者